

埼玉県退職校長会
大里支部会報

おとさと

第55号

(題字は支部長)
令和5年7月31日
発行者
植竹豊

コロナ禍からの再出発

支部長 植竹 豊



新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが『二類相当』から

『五類』へと引き下げられ、行動制限もなくなり、日常が戻りつつあります。一方で「第九波」の兆候も懸念されており、先日も邪魔したある小学校の入学式では「国歌静聴」という場面にも遭遇しました。そんな中、四年ぶりの令和五年度大里支部総会が大勢の会員の参加を得て開催され、十一名の新会員をお迎えし、総勢三百四十一名でのスタートとなりました。

このたび、内田眞弘支部長の後任として大役を引き受けることになりました。私ごとではございますが、退職して十二年、六回目の年男となりました。気持ちも新た

に年始めにおみくじを引いてみました。「吉」が出たものの、「此の人は分に過ぎたる事をすれば悪し、艱難苦勞するは、わが身に適いたる職業がなき故なり」の一言。支部長とはまさに分に過ぎたる事で大変不安を感じておりますが、熊谷班の次は深谷班という順番だと言うことで覚悟を決めた次第であります。元より浅学非才ではございますが、選任されたからには自分なりに最善を尽くして参りますので、会員の皆様のご理解・ご協力を心よりお願い申し上げます。

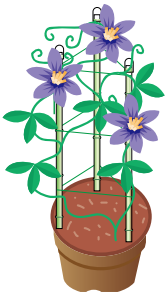
コロナ禍を受けたこの三年間、TVや新聞報道等を通じ、教育界の動向に否応なし関心を寄せられておいたのでことと推察いたします。リモート授業、黙食、互いに表情の見えないマスク生活、コロナの陰で増える不登校等、本来「密」であるべき学校生活が一変してしまいました。大里支部の諸事業も中止や縮小開催が続いて参りました。改めて大里支部規約第二条を見ると「親睦と福祉の増進」「地

区内教育の振興」が述べられています。世界的にも「緊急事態宣言」終了が発表された今、私たちは感染状況を注視しながらも、コロナ禍から脱却して再出発すべき時です。各同好会やゴルフ大会で積極的に活動したり、定期総会や教育推進協議会などに進んで出席して会員相互の親睦を深めたいものです。目を合わせて語り合う活動の中から、現役の先生方にお手伝いできる事柄も見えてくるような気がします。

本年度はコロナ禍からの再出発を目指し、半世紀を超えて活動してきた退職校長会を少しでも前進させられるように努めて参りますので、よろしくお願いいたします。

埼玉県退職校長会総会 報告

六月二日(金)さいたま市立文化センターにて開催され、新井俊一元支部長(熊谷西)が会長に、内田眞弘前支部長(熊谷北)が副会長に選出されました。



大里支部総会 報告

五月十三日 熊谷市江南公民館

四年ぶりに、来賓三名、会員五十八名(熊谷三十一名、深谷二十一名、寄居六名)による支部総会を開催しました。

会に先立ち昨年度逝去された七名の会員に、これまでのご指導とご支援に感謝の意を表し、黙祷を捧げました。

内田眞弘支部長からは、昨年度はほぼ計画通りの活動が出来、最近の教育の話題から、会として出来ることから学校に協力してという挨拶がありました。

野原晃熊谷市教育委員会教育長からは、熊谷班だよりの投稿の紹介から、私たちの仕事がいりいろなところで光を放っている等のお話がありました。



▶支部長あいさつ



▶会場の様子

門倉稔北部教育事務所長からは、ポストコロナ、アフターコロナの学校教育活動の在り方、教職員の懲戒の現状、働き方改革の経過、管理職選考の現状と課題等の情報提供をしていただきました。

関口良子県退職校長会副会長からは、顔を合わせて集える素晴らしさと幸せ、近況報告集発行事業、宮澤章二の詩「くぎり」の紹介から、人と人がつながったの活動、また総会に対して、お祝いの言葉をいただきました。

随 想



「脳トレ」のロケ

熊谷東 加藤 彰

昨年四月より、都内の私立高校で数学の非常勤講師をしている。中学の教員として三十数年勤めてきた私にとって六十代後半での高校の授業は、想像がつかなかった。若い頃県立高校で二年間数学の講師を行って以来、実に四十数年ぶりの高校での授業だ。教科書を見たが、公式や定理のほとんどを忘れていた。これは無理だと思い、一旦はお断りしたが、様々な事情

続いて、昨年度叙勲された三名（朝倉節子氏、茂木優氏、岡田菊江氏）に記念品が贈呈され、代表として朝倉氏からお礼の言葉があり、その後、新会員も紹介されました。

議事はつつがなく進行し、特に会の活動の活性化のため適材を適所にとの趣旨で専任理事を新設する規約改正も承認されました。

そして、植竹豊新支部長以下新役員による活動がスタートしました。（文責 鶴間信好）

が重なり、引き受けざるを得なかった。引き受けた以上しつかり責任を果そうと自身に言い聞かせたが、そう思えば思うほど不安と緊張は高まった。早速、教科指導書や問題集を手元に、まるで受験勉強に取り組むように机に向かった。しかし思うように理解が進まず、床に入っても数式が頭の中を駆け巡り、寝付けない日々が続いた。ところが、一週間二週間と取り組み続けるうちに、徐々に問題が解ける喜び、学ぶ楽しさを感じられるようになってきた。そして

ここ数年、自身が味わったことのないような新鮮な感覚を覚えた。そういえばかつて脳の特徴について、次のような一文を読んだことがある。「大脳皮質の最大の特徴は、刺激や指令に応じてその能力を変えていく。頻繁に入力がある部分は機能が強化され、少ない部分は機能が減少する。つまり、脳は使えば使うほど能力が向上する」というのである。

私は今年六十八歳となり、さすがに体力の衰えを感じるが、二年目を迎えた講師のお仕事は、私にとってまたとない最大の「脳トレ」のチャンスともいえる。今年も悪戦苦闘の日々は続くと思うが、脳に新たな刺激を与えるため、チャレンジを続けたいと思う。

近況報告

熊谷中央 飯野 幸和

熊谷市立大幡中学校を退職して二年が経ちました。退職後は、公益財団法人熊谷市スポーツ協会でお世話になり二年目となります。

勤務場所は熊谷市立市民体育館で日々仕事をさせていただいています。在職中は、皆様から温かいご指導・ご支援を賜り心より感謝申し上げます。

現在の仕事の内容は、体育館の維持・管理をはじめとして、市民の皆様が快適にご使用いただける環境づくりに尽力しております。

教育現場とは異なり生徒や先生方と接する機会は大きく減り、現在は、私よりかなり年齢が上の方々との交流が主となっています。教職で得た経験を今の職場でどう生かしていくかを考えながら過ごす毎日ですが、この年になっても多くのことを学ばせていただいているのが現状です。

今は、年二回の学総・新人大会時に教え子や先生方が来館してくることを楽しみにしています。また卒業生が高校生として、部活動に利用する機会等もあるので、そんな時に話をするのが大きな楽しみにもなっています。

現在の勤務は、週三・五日。週末は三連休となるため、在職中はなかなかゆとりと過ごす機会がなかった家族との時間を楽しんだり、自分の趣味に費やす時間が増えたおかげで、色々な場所を訪れたりとのんびりとした時間も過ごさせてもらっています。

教育とは少し離れた環境ですが、これからも将来を担う子供たちを育てている学校を始めとする教育にかかわっていただければと思います。



「めぐみさん」

人生二〇〇年時代

— 米寿の祝い —

熊谷西 深澤 秋雄

長寿であることは喜ばしいことである。後期高齢者になってから小中学校の同窓会では、喜寿、傘寿と人生の節目を祝い、未来へのスタートとしてきた。

さて、私も今年は米寿になる。めでたいと受け止めている。

子供の頃、「人生五〇年」ということばをよく聞いた。私の生まれるは昭和十年（一九三五年）で、やがて、二・二六事件、日中戦争、そして太平洋戦争へと突入し、小四で戦争は終わった。一九三五年の平均寿命は男性四十六・九二、女性四十九・六三であるが、今や寿命が伸び、男性八十一・四七、

女性八十七・五九である。苦しい戦中、戦後を経験したが、医療、栄養状態、衛生環境などの改善、進歩のおかげで、長寿を迎えることができた。

所で、小生あと何年生きられるか。あと五年、九十三歳までこの世で生活を楽してみたい。先日、墓地の清掃に行った。墓誌を視るともなく眺めた。すると祖先の中にもなく眺めた。すると祖先の中に、文政年間の初期の生まれで、長く、厳しい天保の大飢饉を経験した九十二歳の長寿者がいるではないか。長寿のDNAを受け継ぎ九十三歳までとして、長寿記録を更新したいと考えている。

愚息達も米寿を記念して祝ってくれると言う。更に、昔担任した学年、及び学級の卒業生達も、祝いを兼ねて、宴を開催すると幸便

が届いた。教師冥利に尽きる。子供の頃、赤い帽子、赤いちゃんこで米寿を祝うのを見聞きしてきた。この風習にあやかり孫達からは赤い野球帽、赤いヘルメット（自転車用）、赤いジャンパーのプレゼントがあった。これらで、米寿後のスローライフをスタートしてはと思っている。

「加齢」にどう思うの

熊谷南 大久保 達雄

恐らく加齢によるものであろうが、最近「物忘れ」や「勘違い」「足のもつれ」「ふらつき」「体中の痒み」等々の症状が多くなり、困ったものである。これらに加え、長年にわたり患ってきた「腰痛」「ゴルフ」が出来るのか、これは大問題である。

頭部や体の痒みへの塗り薬、胃腸の消化剤（飲み薬）、目薬の点眼は欠かすことが出来ない。さらには、冷え性のため一年を通して家の中では足袋を履き、首巻きも欠かせない。

夕刻になると「飲み薬」や「つけ薬」の忘れを確認する毎日である。

ただし、好きな酒を飲むことだ

けは忘れないのである。これは不思議である。

又、認知症予防のため「数独」や「クロスワード」に挑戦しているが、難問に挑戦する度に苦戦し、悔しい思いをする。これは、精神上に課題が残るようだ。

私の母は病気で四十二歳、父は七十九歳で亡くなった。はたして、「私は何歳まで生きられるのか？」これは、最大の課題である。

「最愛の妻がいる。息子や娘、孫もいる。飼犬もいる。私にもしものことがあったら、どんなに悲しむことだろう。」と考えると、「どんなに加齢が進もうと、簡単に死ぬ訳にはいかない。」と思うこの頃である。

「まわが」はない

熊谷北 坂上 正明

事件が起こる。犯人像に迫るため、マスコミ各社は例外なく「知る人」のインタビューを流す。「まさかこんな事を起こす人とは思わなかった」、これが九割を占める。職場の仲間や学生時代の同級生が知るの、その人物のほんの一面に過ぎない。さらに人は、自ら成長すると同時に置かれた環境や時間の流れ等でも変わる。

「人」はそんなに簡単ではない。「正しく」、「全てを」理解することなど不可能だ。この世に、生まれながらの「悪人」など存在しない。「悪い事」をした人が、悪い事をした後で、そこで初めて「悪人」になる。だから誰でも悪人になつてしまう危険性はある。その正しいポスター感覚の育成こそ極めて重要。家庭や学校を始めとした「教育」に課せられた責務だ。「お宅の文雄くんていい子だよね〜」、これもよく聞く。お世辞も承知の上で、自分の子をほめられて悪い気がする人はいない。だが、「とんでもない。大体あなたがうちの子をどれだけ知ってるの？ じゃ全然違うよ」（心の声）。その通り！ 逆（「お宅の文雄くんて悪い子だよね〜」）がないのは何よりの証拠。そもそも「いい子」などいない、「悪い子」も同様。いるのは「いいことをした子」であり「悪いことをしてしまつた子」である。評価は行つた「行為」に対して行うべきである。特に「悪事」の場合、「行為」の評価（否定・叱責・注意・指導等）はOKだが、「人格」の評価（特に否定）は「大NG」だ。成長過程にある子どもに対して先入観や偏見を持つ、思い込みや決めつけを行

う。子どもとの信頼関係づくりで失敗の多い典型である。人は変わる。「まさか」はない。

現代版東海道中膝栗毛

深谷北 島崎 一雄

色々な仲間達の中でも特に奇妙な「カイヒンロウ」という六人組がいる。横浜桜木町の中華料理屋で、取り留めもなく飲んだのが始まりであり名前の由来でもある。それから「カイヒンロウ」の迷走が始まった。グループラインを作り、四季折々の情報を交換し始めた。農作業で育てた美味しそうな収穫物を報告する者。妻女と共に歯の抜けた映像を送つて来る者。山に挑戦し、死にそうな表情を送つて来る者。いつも誰かに気を遣いながら返信してくれる者。常に真面目な情報を提供してくれる者と、話題には事欠かない。飲み会にしても旅行にしても決して無理をしないのがルールである。義務でも義理でもないこの緩やかさが何故か心地よいのである。

とあるバス旅行で的一幕。バスに乗り込むと同時に缶が回つてきた。すかさずプシュ、一気に飲み始めた。いよいよ旅のスタートである。数分走つた所で、ガイドさ

んから一言「車内での飲酒・喫煙はご遠慮下さい。」「嘘！」思わず缶を落としそうになるも、素早く隠し何事も無かつたことに。ほどなくして目的地に到着。すぐさま風呂へ。他の五人はカラフルな水着を着て、外のウォータースライダーへ。この寒空の下、外とは。思った通り唇は紫、鳥肌を立てて震えている有様。年寄りの冷や水という言葉を知らないのか。夕食後、今回の目的でもあるショー会場に移動。ショータイムスタートと同時に、担当幹事は軒をかいて爆睡。終了後おもむろに起きだし、「ショーは？」さすがに全員が唾然。こんな旅がほとんどである。

「カイヒンロウ」、今年の旅がまたスタートする。何処の宿場でどんな後日談が待っていることやら。

「生涯一書生」で頑張ります

深谷北 白井 裕一

私は令和二年度、定年退職した。最後は深谷市内の小学校に勤務させていただいた。その後、深谷市出身の偉人、渋沢栄一翁の言葉、「四十、五十は洩垂れ小僧、六十、七十は働き盛り、九十になって迎えが来たら、百まで待てと追い返せ」の「これから働き盛り」を胸に、深谷幼稚園で二年の任期付きで勤務を開始した。

勤めはじめたのが令和三年で、この年から深谷は三年保育になり、全ての幼稚園で三歳児を迎えることとなった。教職員の中に保育園で経験した者もいたが、幼稚園とは全く勝手が違う、と言っていた。朝から三歳の子どもたちの泣き声



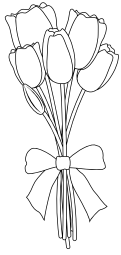
「想」

が響いた。一方で、この年から、六時までの預かり保育が始まった。預かりの担当は交代で、園長も、週二日、預かりを行った。三時を過ぎると「ママは?」、という園児の質問が多くなり、それが段々、号泣に変わっていった。

退職校長会には、この年に入会。コロナ禍で集まるのが難しい時で、会員の近況報告を印刷して配布することになった。その原稿に「深谷幼稚園に勤務し、園児たちと楽しく過ごしています。生涯一書生で、頑張ります。」と書いた。

実践で特に力を入れたのが絵本の読み聞かせであった。月に一週ずつ各部屋で、読み聞かせを行った。そのため児童書のある本屋さんに通う習慣が付き、鉄板と呼べる、児童に受けのよい絵本が増えていった。少し経つと園児から認められ、「プリンセスごっこ」と称するままごと遊びのお父さん役に抜擢された。預かりでも、鬼ごっこで一緒に遊んでくれるようになった。そして泣く子は激減した。

今は、幼稚園長の二年の任期が終って、ロスの日々である。



東北の夜空に咲いた

感動の大輪の花

深谷中 山田 明

教職生活を終え、早四年目となった。この間コロナ禍で軒並み花火大会が中止となっていたことから、以前から家内と「一度は行ってみたいね」と言っていた秋田大曲の花火大会に今年のGWに行くこととした。

大曲の花火大会は長年に亘り年に何度も大きな花火大会を開催しているだけあり、会場への案内や観覧席の設置など感心させられるほどお見事なものだった。

夕闇となり待ちに待った花火が打ちあがった。花火大会が進行していくにつれ、今までの花火大会と少し様子が違うことに気付いた。今回の花火大会は五幕構成で、合間にはスターマインなどで華やかに楽しませてくれるのだが、メインは全国の若手花火師の競技会で、十五発の花火で創造性・独自性・斬新さを競うのであった。

そして、何より驚いたのが、多くの観客が次々に打ち上がる花火を見上げながら、花火師の力作に応えるように楽しみながらも真剣に花火を鑑賞していることだった。人生初めての「花火競技大会」

があつという間に終わりを迎える。と、一部の観客がペンライトを片手に川の対岸に向かって大きく振り始めた。そうすると対岸の花火師も同じように赤い炎を大きく振っている。観客は見事な花火の御礼を、花火師は「観てくれてありがとう」「次はもつと感動する花火を持って来るぞ」とエールを交換しているようで、その光景から大曲の花火の歴史を垣間見るようであった。

翌朝、地元の「花火伝統文化継承資料館」に立ち寄った。機会があれば是非再度感動に浸りたい大曲の花火であった。

夢に出る授業

寄居 若林 直樹

毎日飲む薬の中に利尿剤があるので、一晩に五〜六回目覚めてトイレに行く状態です。よく夢を見て目覚め、トイレとベットの繰り返しとなります。

最近見た夢の中で、関連する夢を見ました。夢に続きがあるとは思いませんでした。

前の夢は、教師の時の教材研究の場面です。一人で自分の机に向かって、教材を前にして悩む自分の姿です。教材の中味は何だか全

く訳のわからないものです。

それを、夢の中の私は、動機づけはどうするか悩んでいたが、そのままにして、展開はどう発問して引きつけていくか、また、わからない状態となり、そのまま次の展開に移って行きます。その教材(それも不明)の関連するものは何かと夢の中で苦しんで目覚めトイレに行き、またベットに戻り寝る状態となります。当時私の若い頃、授業研究会が各地で実施され、若い教師は教科に関わらず一度や二度は授業研究をしたものです。

それが先程の教材研究の夢の後、その夜の夢の続きとして、私が授業者となり苦しむ姿が、また出てきました。不思議なことに、机間巡視している姿は見えるが、生徒に何を質問し、何を助言しているのか全く不明です。生徒が皆机に向かって正面を見ているだけで、置物のような状態です。教室の後ろには二十人位の教師が立って、私の授業の様子を見ていることはわかるが、教師の顔がはつきりしません。立っている人形のような状態です。生徒の反応の無さに困り果て、どうしたら反応を示してくれるのかと悩み始めると目が覚めます。

このように関連した夢を一晩の

間に続けて見ることは珍しいので、夢の紹介をしました。

こんな夢を見て苦しめられて、トイレとベットの繰り返しをするのは、やはり、自分の体験からだと思えます。私も教師だったのだと思えば年齢になり、懐かしさと淋しさが同時に浮かんでくる日々です。

もう成長はないが、過去を振り返ることも良しとしよう。

新入会員の声

初心に戻って

熊谷東 齊藤 豊

中学校一筋三十三年の教職生活を終え、この三月に退職いたしました。初任の特別支援学校で三年勤務し、深谷・大里（江南町）・熊谷の学校で過ごしましたが、先輩方や同僚・地域の方々、そして生徒に支えられ、幸せな毎日を送ることができました。現在は、熊谷市の教育委員会で生徒指導専門員として新たな道を歩み始めました。現役時代同様、ご指導の程よろしく願います。

よろしくお願ひいたします

熊谷東 山下 雅敬

今年度より、退職校長会に入会させていただきました。

これまで多くの先輩方に、懇切丁寧にご指導いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

現在は、再任用教頭として富士見中学校の学校運営に携わらせていただいています。

これからも、熊谷の子供たちのため全力で取り組みます。ご指導の程よろしく願ひいたします。

今後ともご指導

よろしくお願ひいたします

熊谷西 戸坂 和明

この三月に寄居中学校を最後に定年退職を迎えることができました。これまで多くの諸先輩方をはじめ、同僚、地域や保護者の皆様と生徒に支えられ、教職を全うでき皆々様に感謝申し上げます。四月から県立総合教育センター専門指導員として、教職員研修の一部を担当し指導に勤しんでいます。戸惑うことが多い毎日ですが、諸先輩方には引き続きご指導をよろしく願ひいたします。

よろしくお願ひいたします

熊谷東 長田 昌

熊谷市立別府小学校を三月に退職しました。在職中は多くの皆様のご指導と御支援により、教職生活三十七年間に全うすることができました。感謝申し上げます。

四月より熊谷市こども課相談員として、十八才未満の子供とその保護者への相談支援をしております。

戸惑う毎日ですが新たな刺激をもらっています。今後もご指導の程よろしくお願ひいたします。

後進を育てる

熊谷東 伊藤 幸男

熊谷東中学校在職中は、大変お世話になり、ありがとうございました。

四月より満員電車で揺られながら都内の大学へ通い、英語教師になる志をもつ学生の指導にあたりています。教員志望者不足が社会の話題として度々取り上げられますが、「教師」を目指す若者の少なさを目の当たりにしています。人が好きで、高い英語力を備えた人物を埼玉に、大里に送り出したいと新たな決意を持ちました。

よろしくお願ひいたします

熊谷東 森田 健二

三月に熊谷市立籠原小学校を最後に退職し、退職校長会に入会させていただきました。

在職中は、たくさん先輩方に支えていただき、本当に感謝申し上げます。

現在は、初任者拠点校指導教員として、子供たちの力を伸ばすことのできる若手教員の育成に携わらせていただいております。

引き続き、ご指導の程よろしくお願ひいたします。

お世話になりました

熊谷南 福田 好伸

三十八年間の教職生活を無事に終えることができました。特に、最後の三年間は新型コロナウイルス感染症対策に全力で取り組み、あつという間に時が過ぎたように思います。多くの先輩方、同僚、様々な方に支えられ今日を迎えられたことに喜びを感じています。

四月からは、週三日間小学校四校で拠点校指導教員として勤務しております。これまでの経験を生かし、微力ながら頑張りたいと思っております。

経験を生かしながら

深谷北 笠原 直史

在職中は、多くの皆様に支えていただきました。心より感謝申し上げます。

四月からは、深谷市の社会教育指導員として勤めております。今までの経験を活かしながら学校・家庭・地域の連携と協働による教育の向上のために尽力して参ります。今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。

よろしくお願い致します

深谷中 荻野 浩和

この三月に深谷市立豊里中学校を退職し、大里退職校長会に入会させていただきました。今まで、先輩方をはじめ多くの方々に支えていただきましたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

四月より深谷市内の四校で六名の初任者の指導を行っております。今まで教えていただいたことを少しでも若い先生たちに伝えられたらと思っております。今後とも、ご指導よろしくお願いいたします。



感謝と清々しい気持ちで

深谷中 田野 智恵子

大滝村立小倉沢中学校を初めに岡部西小学校を最後とし、三十九年の教員生活をつつがなく過ごすことができました。今は、多くの方に支えられたことへの感謝と清々しい気持ちでおります。

校長としての三年間はコロナ禍の厳しい状況でしたが、子供の力強く生き生きとした成長と、共に乗り越えてきた方々との日々がかけがえのないものとなりました。今後ともよろしく願います。

よろしくお願い致します

深谷北 柴崎 千穂

三月に深谷市立常盤小学校を退職し、退職校長会に入会させていただきました。

在職中は先輩方から学んだ事を活かし、コロナ禍の中、命を守る覚悟をもって学校経営に勇往邁進できたことに感謝申し上げます。多くの方々に支えていただき、お陰様で教職人生を全うすることができました。本当にありがとうございます。

四月より、深谷市立教育研究所の学校福祉相談員として勤めております。今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。

第二十三回春季親睦ゴルフ大会

令和五年六月六日(火)、上里ゴルフ場に十六名の参加者が集まり春季大会を開催しました。

雨が降らず、強烈な直射日光を浴びることもなく、フェアウェイをカートに乗って心地よい風に吹かれながら快適にプレーすることができました。

大会の結果は、次のとおりです。

- ・優 勝 小林 晃一
 - ・準優勝 島崎 一雄
 - ・第三位 加藤 眞司
 - ・ベストグロ 関根 隆夫
- 十一月に秋季大会を計画しています。多くの皆様の参加をお待ちしています。

(文責 小林晃一)

叙 勲 者

藍綬褒章

熊谷班 朝倉 節子 様

秋の叙勲

寄居班 轟 和男 様

高齢者叙勲 (班別、生年月日順)

熊谷班 萩原 利典 様
岡部 弘行 様

- 大谷 恒男 様
- 茂木 優 様
- 服部 喜昭 様
- 長島 仁 様
- 岡田 菊江 様
- 相馬 貞夫 様

事務局だより

幹事 荒木 宏治
吉井恵美子

五・六年度の幹事を努めさせていただきました。深谷班の荒木宏治、吉井恵美子です。誠心誠意努めてまいりたいと思っております。前任者同様、会員の皆様のご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○総会要項の誤字訂正

三頁・事業計画(案)の縦字の事業報告↓計画に、五頁の深谷班中地区(4組)↓(5組)に、訂正をお願いいたします。

○大里地方教育推進協議会

十一月七日に深谷市文化会館小ホールにて、実施する予定です。退職の先生・現職の校長先生の活躍する様子を知る機会です。積極的な参加をよろしく願います。

みんなの広場

短歌

大忙しの

熊谷北 荻野 俊行

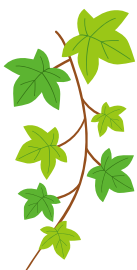
公民館、退公連に学校区

日替わりメニューに追われる昨今

阿弥陀堂と墓地管理の三年目

これで村役終了となる

大忙しの毎日なれど晩酌の
時間は春秋変えやうもなし



卒業

熊谷東 塚本 喜一郎

「D組男子退場」「ハイ」一瞬の静止

二階席からも「ハイ卒業します」

窓からの陽光答辞を待つばかり

呼名四十担任小さく息をつく

恩師前列中央胸光る

俳句

川柳

老いの虚言

熊谷中央 角田 茂男

ブランドは夏の火鉢だ手が出ない

高齢者後期の次は末期です

気配りも配り過ぎれば勇み足

躓いたかつて数学今スマホ

民主的サボリ屋さんの免罪符

彫刻



「奏」

寄居 吉田 壽美子



写真



「深谷南公民館と桜」



「熊谷桜堤」

深谷中 清水 勉 ※地域の桜をドローンにより撮影しました。

彫刻説明

本号を飾っている三点の彫刻は、吉田壽美子先生（絵画同好会所属）の作品で、全て県展に出品されたものです。

編集後記

新会員十一名を迎え、コロナ禍からの再出発を目指す新体制のもとで編集された広報紙五十五号をお届けします。

「親睦と福祉の増進」の一助になれば幸いです。

また、「みんなの広場」に掲載する作品も広く募集しています。左記に記載の身近な広報部員に気軽に声を掛けください。

令和5年度 広報部員

- | | | |
|----|----|--------|
| 福島 | 裕彦 | (熊谷北) |
| 菊池 | 正敏 | (深谷中) |
| 秋元 | 行和 | (熊谷東) |
| 新井 | 英昌 | (熊谷中央) |
| 稲葉 | 俊一 | (熊谷西) |
| 原口 | 明郎 | (熊谷南) |
| 内田 | 一郎 | (熊谷北) |
| 小柳 | 代資 | (深谷南) |
| 木村 | 隆大 | (寄居) |
| 丹羽 | | |

埼玉県退職校長会大里支部会報

(第五十五号)

発行 令和五年七月三十一日

発行者 支部長 植竹 豊

印刷所 株式会社 博文社

熊谷市本石一―一三四

〇四八(五二)三〇六三